

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果について

枚方市立招提北中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和元年度（平成31年度）全国学力・学習状況調査の結果について、保護者の皆様に本校の全体概要についてお知らせいたします。結果によりますと、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、今年度は全国を基準とした経年推移によって、本校の学力や学習の状況及び生徒質問紙から見てきたことについてお知らせするものです。引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

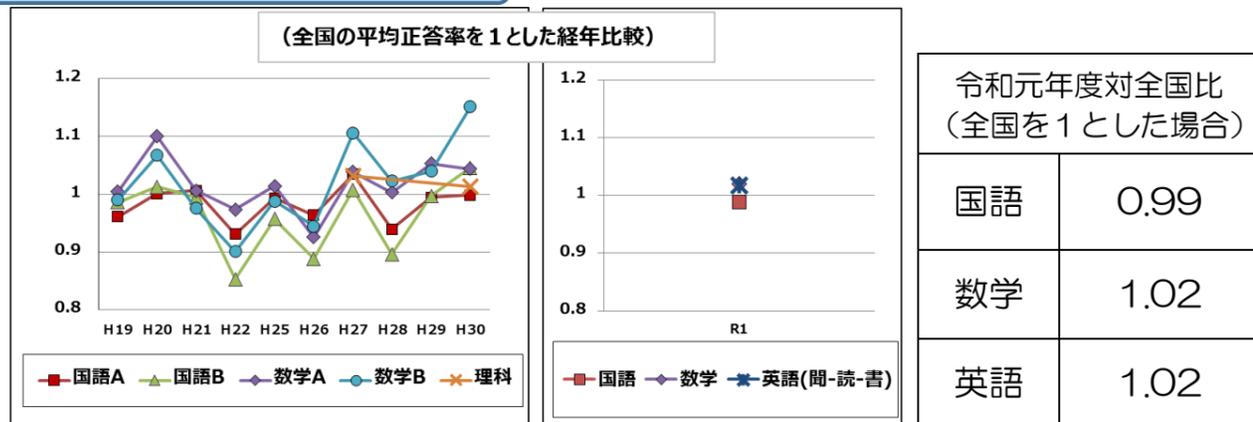
※教科や出題範囲が限定されており、本調査により測定できるのは「学力」の特定の一部であることをご理解ください。

【全体概要】

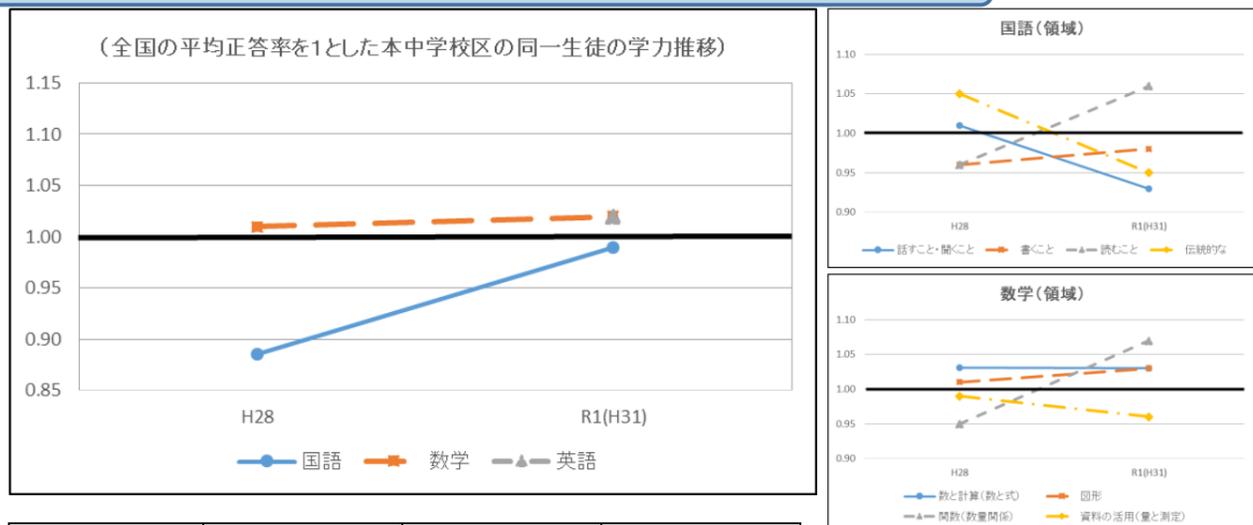
学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

平均正答率経年比較（対全国比）



本中学校区の同一生徒における平均正答率経年推移（対全国比）



| | 国語 | 数学（算数） | 英語 |
|-----|------|--------|------|
| H28 | 0.89 | 1.01 | — |
| R1 | 0.99 | 1.02 | 1.02 |

※本中学校区は、1小1中であるため、平成28年度船橋小学校のデータを基に作成しました。
※平成28年度の「国語A・B」を「国語」として、「算数A・B」を「算数」として換算しています。

○国語について

全体の平均正答率は、全国平均と同等程度の結果となりました。普段の授業でも、内容をきちんと捉えながら「読むこと」や、目的に応じて自分の考えや意見を「書くこと」といった学習には何度も取り組んできましたので、その成果もあり、それらの領域の相対的な3年間の学力の向上が見られました。特に、「読むこと」の領域においては、全国平均を大きく上回り、日々の授業の成果が顕著に現れた結果となりました。しかし、「話すこと・聞くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、全国平均を下回るだけでなく、この3年間の相対的な伸び率も芳しくないことがわかる結果となりました。「話すこと・聞くこと」の能力を高めるためにも、やはり多くの実践的な言語活動を取り入れる必要があるように思います。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、漢字や文法などの知識や理解について問われたり、反復的な学習の成果が問われるような問題が多いので、そのような知識・理解と技能の定着が不十分であることが改めてわかりました。そのため、普段の授業や家庭学習での日々の知識・理解や技能の定着をより図れるような学習に取り組みながら、今後も柔軟に対応できる多様な考え方を意識した言語活動にも取り組んでいきます。

○数学について

全体の平均正答率について、府平均・全国平均をとともに上回りました。特に、「関数」の領域は全国平均に比べ高く、この3年間の相対的な伸び率も非常に高いものとわかる結果となりました。これは、普段の授業での「多面的・多角的に考えること」や「根拠を明確にして説明すること」に取り組んできた成果であると思われます。また、「図形」の領域においてもそのような取り組みの成果もあり、全国平均より高い結果となりました。しかし、「数と計算」や「資料の活用」の領域においては、他の領域に比べて、相対的な伸び率が芳しくなく、上記の国語と同様に、数学的な知識・理解や技能などの定着が十分ではないという明確な課題が浮かび上がりました。特に、「資料の活用」の領域においては、全国平均を下回っており、様々なデータを目的に応じて整理・分析・活用していくような学びが必要であることがわかりましたので、現在もそのような学習に取り組む機会を授業の中に取り入れています。

○英語について

「読むこと」、「書くこと」の領域においては府平均・全国平均を上回りました。特に、「読むこと」については、まとまりのある文章を読んで、書き手が最も伝えたい内容を理解する問題において、「書くこと」については与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く問題において府平均・全国平均を大きく上回りました。また、特筆すべき点としては、「読むこと」の項目大問8について、食糧問題について書かれた資料を読み、話の内容や書き手の意見を的確にとらえてその問題に対する自分の意見を書くという「読むこと・書くこと」の力が必要とされる複合的な問題で府内・全国平均を上回っていたことです。しかし、「聞くこと」においては府内・全国平均を大きく下回っており、日々の学習活動内での発音・発話が不足していることで、「聞く力」が大きく欠如していることがわかりました。

○本校での3年間の全体的な学力の推移について

本校区においては、1小学校1中学校のため、現在の中学校3年生が小学校6年生のときに受けた「平成28年度全国学力・学習状況調査」と今回の「平成31年度全国学力・学習状況調査」を比較することで、全国の同級生との相対的な比較が可能になると考え、それらのデータを基に、分析することとしています。左のグラフからも、全国の同学年と比較すると、本校での『主体的で深い学び』による「学びに向かう力」の育成を目指す授業を中心とする様々な学びが相対的に顕著な国語力の向上に寄与していることがわかります。しかし、相対的に伸び率の芳しくない領域や観点も見受けられますので、これまでの本校での取り組みの成果と課題をより明確にして、全体的な学力の向上を目指していきます。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

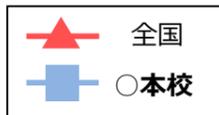
※平成23年度は中止（東日本大震災）、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

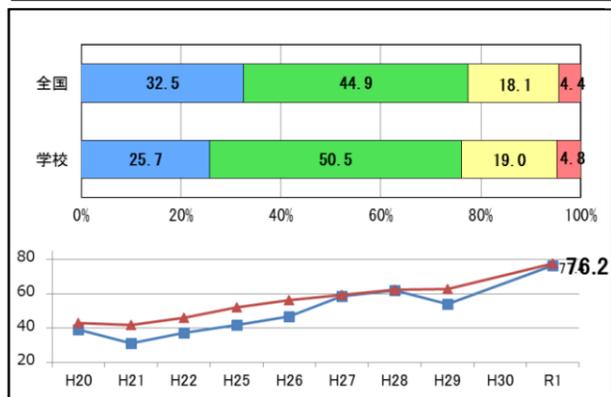
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

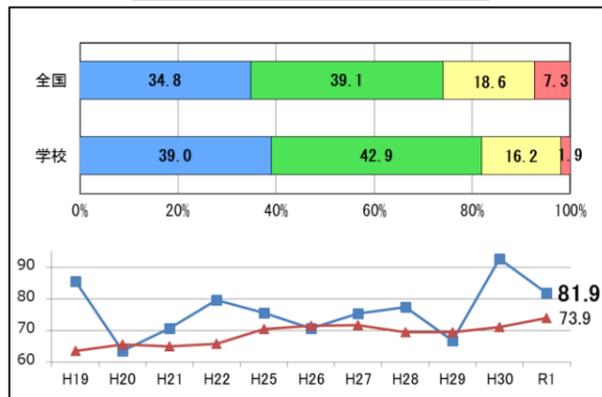
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



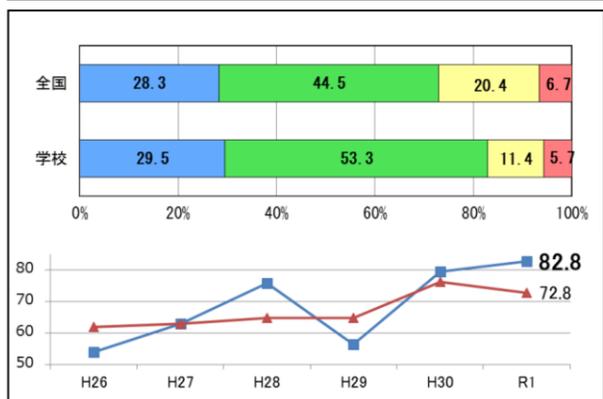
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている



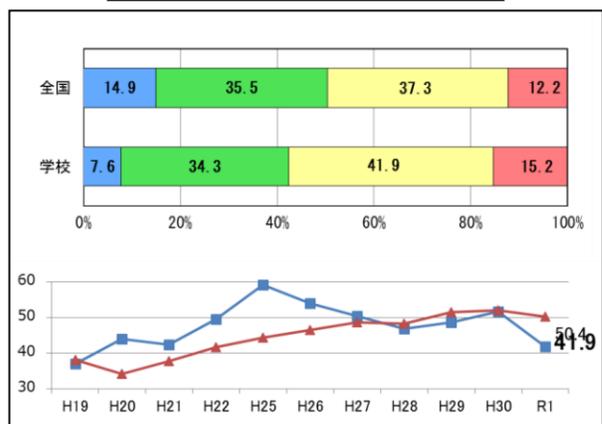
数学の授業の内容はよく分かる



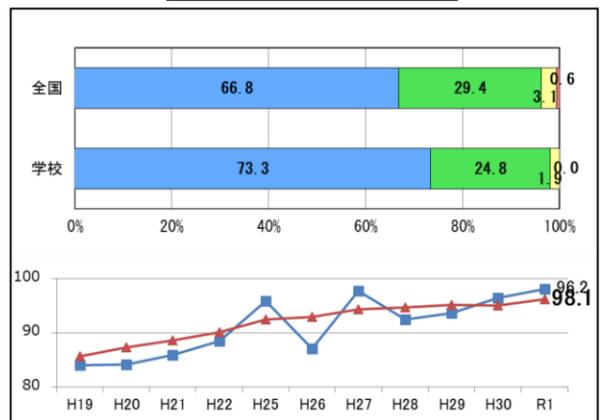
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



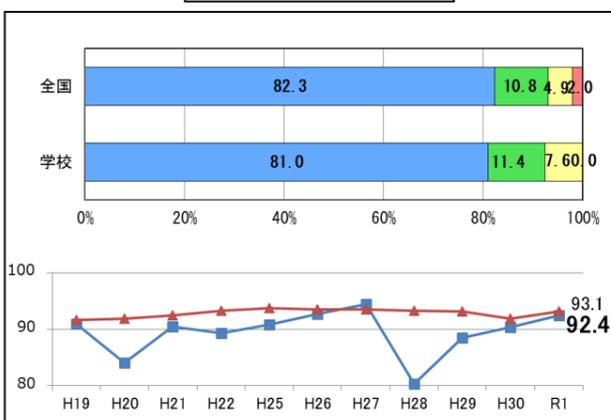
自分で計画を立てて勉強をしている



学校の規則を守っている



朝食を毎日食べている



< 質問紙調査結果の概要 >

○授業改善について

この数年、本校では「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた「招北中スタンダード」として、①「めあて」と「ふりかえり」を明確にすること、②単元をまとまりとして、その中に「学び合い」活動（班活動）を適宜取り入れていくこと、③「なぜ?」「どうして?」「どういうこと?」など学びを深める「黄金の言葉」を大切にすること、④生徒同士をつなげる声かけや発問を意識すること、などを全教職員で共有し、どの授業でも「自分で考える」「学び合い」「発表の機会」「振り返りの充実」を多く設けてきたこともあり、その成果が徐々に現れてきていることがうかがえました。特に、教室で共に学ぶことの意義や対話の必要性・重要性を伝えてきたこともあり、授業中での「主体的に学びに向かう力」が徐々に身につけていることが表れています。

○家庭学習について

学校の宿題・予習・復習を家でする生徒も、自分で計画を立てて勉強している生徒も、ここ数年、全国平均に比べて少ないことが気になっていましたが、やはり今回の結果からも、まだ改善の余地があるように思います。計画性を持って家庭学習に取り組んでいる生徒が未だ半数にも満たないことから、昨年度から終礼でその日の放課後の計画等を考えるためのツールとして「つながるノート」を全学年で導入しました。さらに、今年度からは、終礼で放課後の予定や宿題の有無などを、各自でしっかりと計画立ててもらうために、終礼の時間を5分長くしました。また、ここ数年、普段の家での勉強を30分以上する生徒も全国平均に比べて少ない傾向が見られましたので、「自学自習プリント」や「学習のてびき」などの取り組みを充実させ、普段の家での勉強を30分以上する生徒は上昇傾向にありました。しかし、今回の分析で1時間以上している生徒は増えていないことがわかりましたので、学校としては家で1時間以上継続して学習に取り組むための手立てを考えていきますが、普段のスマートフォンの使用率や使用時間の長さなどを考えると、保護者の皆さまと協力して取り組んでいく必要があるように思います。

○学習規律について

授業中においては、これまでに校区の小学校と一貫して取り組んできた学習規律の重点項目や、「学習のてびき」にある「学習の4つのきまり」を意識して授業に取り組んでいる生徒がほとんどであり、全体として落ち着いた状況で授業に取り組むことができている。また、これから求められる「主体的・対話的で深い学び」のある学習活動をめざして、本校ではグループ学習やペア学習での「学び合い」や「発表の機会」を多く取り入れてきたこともあり、積極的・主体的に学習に取り組む生徒が増え、「学びへの向き合い方」についても育成されていることがうかがえました。一方で前述したように、家庭での学習習慣に多くの課題が残されており、保護者の皆さまと協力しながら、家庭での生活習慣や学習習慣について考えることが必要だと思われます。

○生活習慣について

ここ数年の生活習慣の重要性の働きかけの成果か、ある程度良い生活習慣が維持及び向上できていることがうかがえました。特に、小学校からの「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を大切にすることを学校として強調し、呼びかけてきたこともあり、良い状態で維持しているように思われます。一方で、スマートフォンなどの携帯端末やインターネットゲームなどが生徒の身近なものとなり、その使用率及び使用時間がここ数年全国的に高くなっている傾向が見られます。この傾向は本校生徒においても顕著に見られ、高い割合で伸び続けていることが家庭学習時間に影響していないかと憂慮しています。

< まとめ >

これまで本校で積極的に取り組んできた「キャリア教育」や「探究学習（総合的な学習の時間）」を中心とする「授業や学校行事の改善」および「招北中『学び』のスタンダード」などの「招北モデル」の構築によって、少しずつではありますがその成果が現れてきているように思えます。特に、本校生徒のこの3年間での成長は、身体的成長だけでなく、学力（資質・能力）にも飛躍的な成長を見ることができました。何より、本校が目指している生徒主体の様々な取り組みが、生徒自身の「自尊感情」や「自己肯定感」を育み、そのことによって、より生徒主体の授業や学校教育が促進されているという形で現れてきていることがわかりました。今後も、本校生徒の現状を随時把握しながら、校区の小学校も含めた「チーム招北」として、様々な教育活動を通して、学校一体となって、汎用的な学力（資質・能力）の向上に向けて取り組んでいこうと考えています。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

< 数学 >

成果や課題があった設問

【成果】 グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

| | 冷蔵庫A | 冷蔵庫B | 冷蔵庫C |
|------------|---------|----------|----------|
| 容量 | 400 L | 500 L | 500 L |
| 本体価格 | 80000 円 | 100000 円 | 150000 円 |
| 1年間あたりの電気代 | 15000 円 | 11000 円 | 6500 円 |

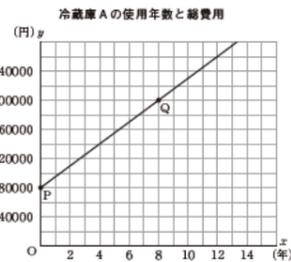
健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考慮することにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であると、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + (1\text{年間あたりの電気代}) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 冷蔵庫Aを購入してx年間使用するときの総費用をy円とします。このxとyの関係は、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



このグラフにおけるx座標が0である点をP、x座標が8である点をQとします。点Pのy座標と点Qのy座標の差は、冷蔵庫Aについての何を表していますか。下のAからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- A 本体価格
- イ 使用年数
- ウ 1年間あたりの電気代
- エ 購入してから8年間の電気代
- オ 購入して8年間使用するときの総費用

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお節さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お節さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。

- A それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式
- イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ



【考察】
このような実生活の場面で数学的な見方・考え方を働かす問題には、これまでの普通の数学の授業の中でも取り組んでおり、そのような普通の積み重ねの結果と思われる。

| 6 | | 本校 | 全国 |
|-----|------|------|------|
| (1) | 正答率 | 48.6 | 38.8 |
| | 無解答率 | 0.0 | 0.3 |
| (2) | 正答率 | 38.1 | 34.7 |
| | 無解答率 | 9.5 | 11.6 |

【課題】 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる

2 連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

反比例の表から、x と y の関係を式で表すことができる

4 下の表は、y がxに反比例する関係を表したものです。y をxの式で表しなさい。

| | | | | | | | | | |
|---|-----|----|----|----|---|----|----|----|-----|
| x | ... | -3 | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 3 | ... |
| y | ... | 2 | 3 | 6 | X | -6 | -3 | -2 | ... |

【考察】

これらの問題は、「技能」の領域であり、これまでの反復学習や類似の問題にどれだけ取り組んだかということが影響してきます。また、「反比例」は中学校1年生時に、「連立方程式」は中学校2年生時に学習しましたが、その後の授業での学習ではあまり用いないために、概念理解や技能が薄れていくのではないかと考えられます。やはり定期的に重要な数学的用語を用いた基本的な問題の反復学習が必要であるように思います。

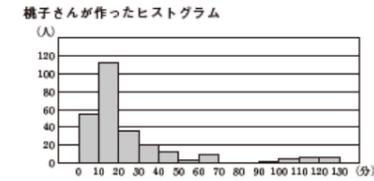
資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

8 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書だよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。

| | |
|---------------------|-------|
| ・最近1か月間で読んだ本の冊数ですか。 | (冊) |
| ・1日あたりの読書時間は何分ですか。 | (分) |

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

| | 平均値 | 最大値 | 最小値 |
|----------------|------|-----|-----|
| 1日あたりの読書時間 (分) | 26.0 | 120 | 0 |



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

【考察】
この問題の誤答から、これまで取り組んできた「根拠を明確にして説明する」ような解答を書いてはいましたが、例えば、「最頻値」や「分布の範囲」などの「数学的な表現」を用いずに説明しているものが多かったです。やはり普通の授業の中での様々な説明の場面でも「数学的な表現」を用いて説明することの大切さを伝えていく必要があります。

< 英語 >

成果や課題があった設問

【成果】 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる

8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ... : ~だけでなく、...も

【考察】
世界的な課題を扱ったこのような問題でも、日頃から本校の総合的な学習の時間などで「SDGs」について学んでいる成果もあり、自分事として考えやすい内容だったようで、自らの考えや意見も自ずと導きやすかったように思います。しかし、日本語から英語に直す点においては、課題があることがわかりましたので、今後は自分の考えや意見を英作文として書かせる取り組みを増やしていく必要もあります。

【課題】 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる

4 (放送問題)
英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

【考察】

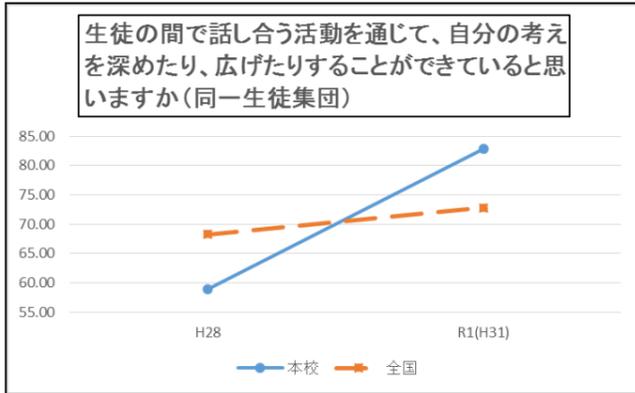
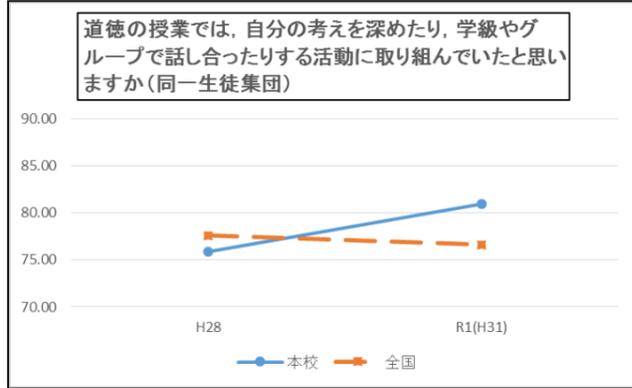
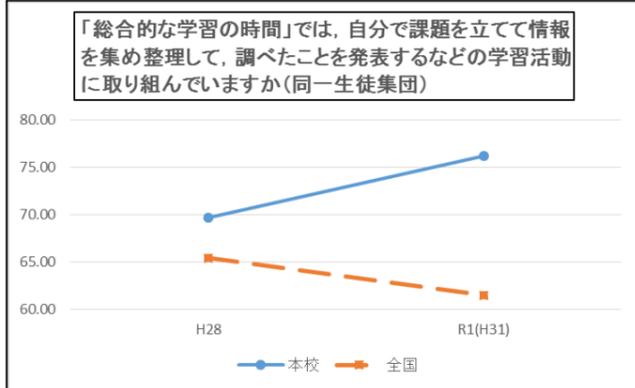
問題の内容が理解できずに、内容と関係のないアドバイスを書いている生徒が多く、無解答率も高かったです。今後、発音・発話の機会を増やし、「聞くこと」の活動を多く取り入れながら、上記の通り、やはり少しでも自分の考えや意見を英語で書けるようにしていく必要があります。

| 8 | 本校 | 全国 |
|------|------|------|
| 正答率 | 14.3 | 10.9 |
| 無解答率 | 26.7 | 27.9 |

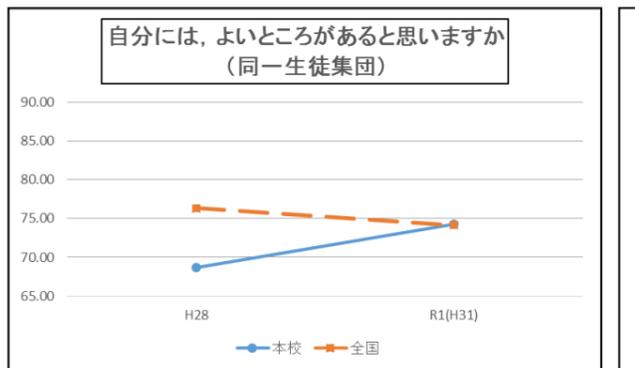
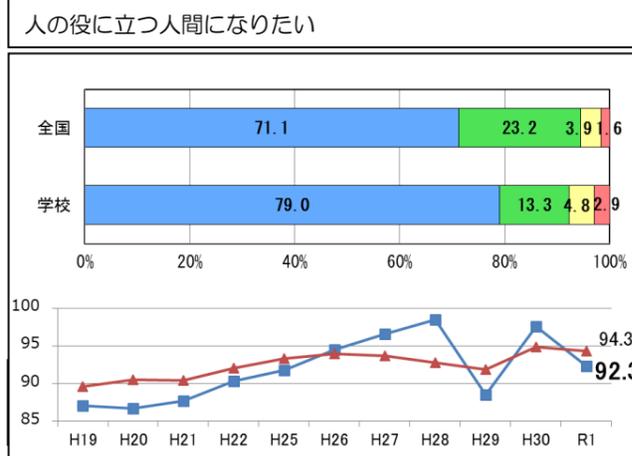
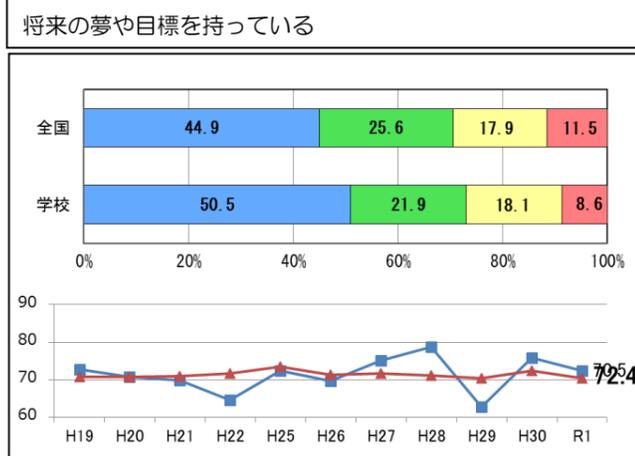
| 4 | 本校 | 全国 |
|------|------|------|
| 正答率 | 1.0 | 7.6 |
| 無解答率 | 42.9 | 42.3 |

質問紙調査について（顕著な結果が見られた項目についての考察）

【成果のあった項目】

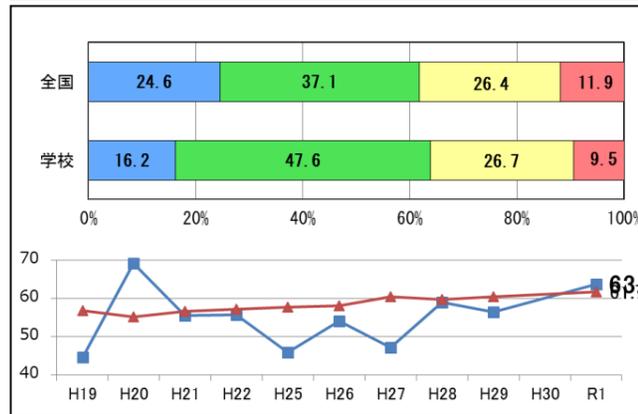


(考察)
 ここ数年の生徒自身が自己選択・自己決定する「キャリア教育」の視点を取り入れた教育活動の成果が顕著に現れている結果となりました。また、どの授業でも話し合い活動や言語活動を取り入れた成果が見受けられます。
 このような学びが、「主体的に学びに向かう力」の育成にもなり、学力(資質・能力)の向上にも寄与しているように思います。

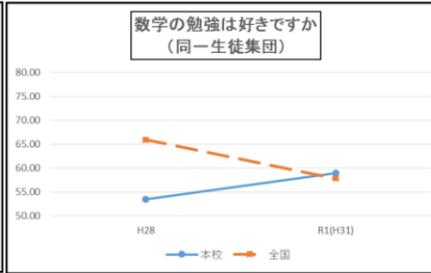
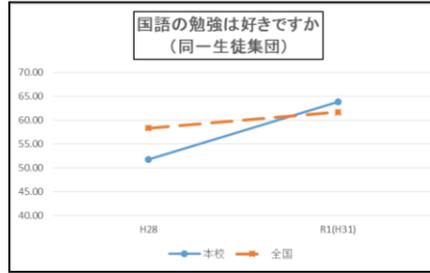
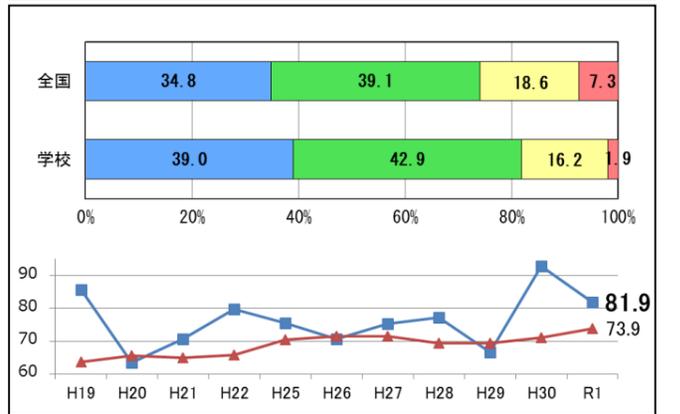


(考察)
 上記のような取り組みの影響もあり、自尊感情や自己肯定感が高くなっている傾向がわかります。特に、左のグラフからもわかるように、この学年の小学校6年生の時の自己肯定感と比べると、非常に高まっていることが見られ、本校での様々な生徒主体の取り組みが大きな成果となっていることがわかります。
 今後も、学校行事を中心に様々な生徒主体の取り組みを取り入れ、生徒の自己肯定感をより高めていきます。

国語の勉強は好きですか



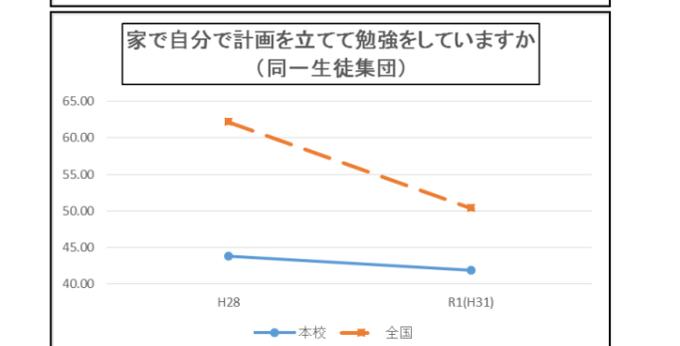
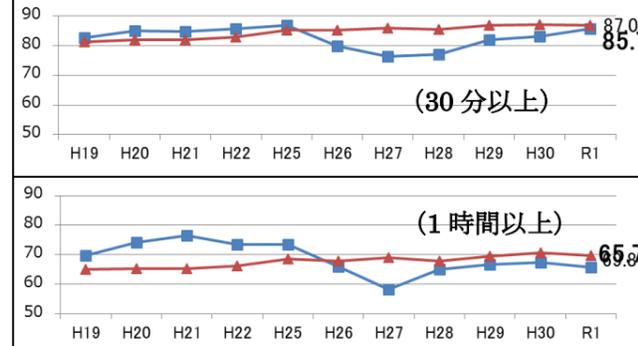
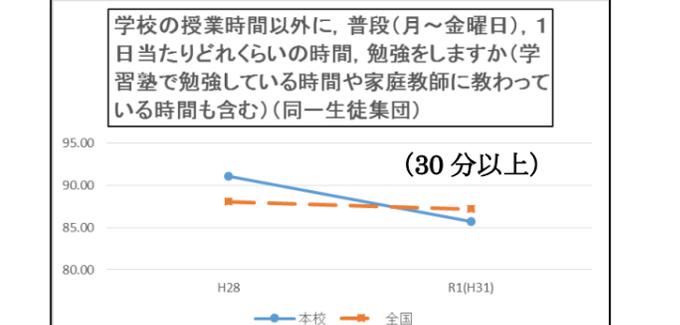
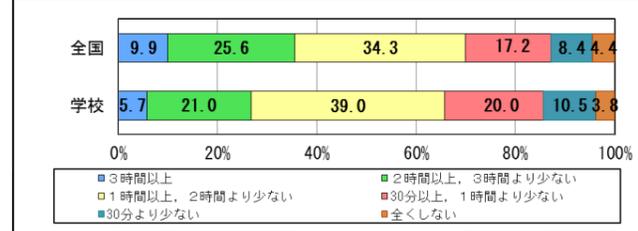
数学の勉強は好きですか



(考察)
 正答率や点数などに関係なく、単純に教科の勉強が好きである生徒が増えていることがわかります。特に、国語や数学は小学校からの積み重ねが中学校での学習に大きな影響を与えるにも関わらず、小学校のときよりも前向きに学ぼうとする姿勢がうかがえます。

【課題が残った項目】

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



(考察)
 30分以上勉強する生徒は増えているものの、1時間以上勉強する生徒は増えていないことがわかります。また、小学校6年生時よりも学習時間が短くなっている生徒もいることがわかります。このような課題はこれまでも見受けられましたので、昨年度からの「つながるノート」だけでなく、放課後の予定を計画立てる時間を終礼で取ることにしました。生徒自らが中長期の見通しを持った計画を立てて学習していくことができるように支援していく必要があります。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。また、折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

分析結果を踏まえて今後取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

【国語科】

- ① これまでと同じように、文学的な文章に触れる機会を増やし、比喻等の文学的な表現や語句の意味を読みとる力の育成を目指します。
- ② 漢字のプリント等を通じて、正確な漢字を身につけさせる。また、文法などの基本的な知識・理解を培うために反復学習にも力を入れていきます。そして、作文など文章を書く機会を増やし、身につけた漢字の活用や語彙力、文法の更なる定着を図ります。
- ③ 様々な場合を想定して「話す」・「聞く」などの言語活動を通じて、柔軟な発想や多角的に物事を捉える力を育成していきます。

【数学科】

- ① まずは基本的な計算ができる技能や数学的な知識・理解の定着に努めていきます。そのためにも、反復学習の機会を増やし、定期的にそれらの力を活用する場面を設定していきます。
- ② 文章問題からその答えを導き出すために、読み解く力を身に付けさせる必要があります。その過程を順序立てて考えることができる論理的思考力を養うためにも、端的な計算問題よりも読解力を向上させる文章問題に多く取り組みます。
- ③ 論理的に筋道を立てて説明する力を培っていく必要があります。そのために、まず長文の文章問題を読むことに慣れさせ、情報を整理するという場面を多く設定していきます。また普段の授業においても、根拠を明確にさせて答えを導くような学習活動を行っていきます。

【英語】

- ① 発音・発話の機会を増やし、「相手の考えを正確に聞き取り、自らの考えを的確に相手に伝える・表現する」力の育成を図ります。
- ② 社会問題に触れる機会を増やし、「自らの考えを的確に英文で表現できる」力の育成を図ります。
- ③ 基礎的な英文法の理解を与える機会を増やし、「自らの意見・考えを正しく英語で表現できる」力の育成を図ります。

【全教科において】

- ① 主体的に考える場面・機会の設定と、充実した言語活動をより一層取り入れた活動や授業づくりに取り組んでいこうと考えています。
- ② 生徒に話し合わせたり発表させたりする機会は多くなってきていますが、「活動あって学びなし」にならないように、発問や課題の質を高めていく必要があります。「わからないこと」「疑問に思うこと」を大切に、生徒が「なぜだろう」「もっと知りたい」と考えるように、ポイントをしっかりとおさえた「学び合い」や、筋道を立てて発表し、深められるような力の育成をめざします。
- ③ 「めあて（目標）」と「振り返り」の明確化とともに、その内容の質を高めていく必要があります。特に、授業に臨む際に、生徒自らが本時の「めあて」を明確にしておくとともに、「振り返り」においては授業の中で生徒が振り返る時間を確保し、また家庭学習においても「振り返り」（復習）をすすめる習慣がつくように働きかけていこうと考えています。

(2) 学び方について

- ① チャイムが鳴る前には着席し、授業に向かう心構え（準備）の徹底を図ります。
- ② 授業の始まりと終わりのあいさつをしっかりと行うよう徹底していきます。
- ③ 「学び合い」の際には、まずは人の話をきちんと聴き、しっかりと自分で考えて人に伝えるというメリハリのある学習姿勢がとれるように働きかけていきます。
- ④ 「学習のてびき」や「つながるノート」等を活用し、生活習慣も含めた家庭学習での学び方の改善に向けても働きかけをしていきます。

(3) 自学自習について

- ① 「学習の手引き」や「つながるノート」を活用し、学校だけでなく家庭と連携して、自学自習力、「学びに向かう力」の向上を目指します。
- ② 適切な家庭学習の課題を示し、家庭学習の習慣化を図るとともに、「基礎的・基本的」学力の定着を図る取組みを進めます。
- ③ 授業の中で抱いた疑問を家庭でも学習する課題を多く提供したり、発展的な内容を家庭に持ち帰り考えさせたりすることで、家庭学習の意欲向上を図ります。
- ④ 「自学自習プリント」や「自学ノート」の量と質を学年に応じて再度検討し、その徹底を図ります。
- ⑤ スマートフォンやゲームの使用率および使用時間と生活習慣などの改善についても、学校としてできることを考え、発信していきますので、ご家族のご協力もよろしくお願いいたします。
- ⑥ これまでの放課後の自学自習教室を、生徒一人ひとりの学びの目的に応じた活用ができるように、活用方法や内容、開室頻度を改めて見直していきます。そして、その旨を周知徹底し、生徒に利用をより一層奨励していきます。